

3月20日 308回 高校生平和ゼミナールに関わって

提供 國枝幸徳さん（NHK学園高校教師）19名

國枝さんの話は、「僕は好奇心のかたまり！この目を見て、考え、学びたい!! だから、どこへでも出かけます。今も、すぐにでも国会前へ行きたいと思っています」という自己紹介から始まりました。生徒はのびのび、自分をさらけ出し熱く語る人気教師・・・そんな高校生活を通して、教師っておもしろそうと思った國枝さんは、迷わず高校教師になりました。

最初から、生徒と動いて学ぶことを大切にしてきました。しかし、だんだんそれが難しくなり、心が学校の外に向かうようになってきたころ、「全国高校生平和集会」の存在を知り、1996年8月、第23回全国高校生平和集会（広島）に27名の高校生と共に初めて参加しました。以後、沖縄、広島、長崎での平和集会にほとんど毎回参加。

2004年には「ようこそ先輩平和課外授業」がスタート。大垣東高校出身の写真家久保田弘信さんを迎えての授業は大きな話題になりました。2006年の第33回全国高校生平和集会（広島）からは、大垣のメンバーが中心になっていき、2010年からは、広島駅前から平和公園まで平和行進に合流するようになりました。東京に世界の子ども平和像を作る運動、イラク戦争反対集会に「子どもたちを殺さないで」の横断幕を作って参加したことなど、活動がどんどん広がっていきました。

お金のありがたさを感じるため新幹線を使わず青春18切符を使うこととか、目的地以外にフィールドワークを加えて楽しく内容の濃いものにしていったとか、映像を見せながら、そのときどきの苦労や成果を楽しそうに語られました。いつも國枝さんはそこに参加した生徒の成長に確信をもち、次につなげることを大切にしてきました。

しかし、受験体制や、自主性が尊重されない学校の環境の中で、高校生の参加者が段々減り、今年は「ゼロ」になりそうです。高校生というのは本来正義感の強い年代であり、声をかければ関心を持つ高校生もいると思うが、そんな余裕が大人（教師）の側になくなっていくことが一番問題であると指摘されました。

参加者からは次のような意見が出されました。

「署名をしていると高校生の反応が一番良い」「学校で教師から政治の話を知っているのとは、反応が全然違う」「高校のそばで署名活動をしている。以前は全く関心を示さなかったが、18歳選挙権になって少し変わってきた」「高校生は何に関心を持っているのかわからないので、高校生と何を切り口に話したらいいのかわからない」「若者にはツイッターが有効な手段だと思う」「今、教師がどう子どもに向き合うかが問われている」等々。

最後に國枝さんは、高校生は受験などで他のことには関心が向かないように見えても、心の隅には政治意識がある。様々な情報が錯綜しているなか、岐阜・九条の会もラインのアカウントを作ったり、ツイッターで情報を流すなど、絶えず声をかけることが大切。だが若者は「くだい」のは嫌——など、長年若者と活動を共にした國枝さんならではの言葉で締めくくられました。